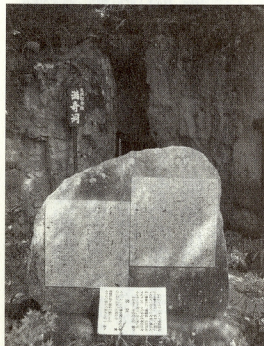




井倉洞を出たところにある「阿里佐の宮」は、縁結び様として信仰されている。



「満奇洞」入口前には与謝野鉄幹、晶子夫妻の歌碑が建っている。“おのづから不思議を満たす百の房ならびて広き山の洞かな 寛”。



「羅生門」からひんやりした空気が立ち上ってくる。この付近は低湿度な環境のため、多くの種類の貴重な苔類の宝庫となっている。

けて水が創りあげた作品と、場所によつて音色が変わる水の音が響く芸術・音楽ホールのようなものである。したたり落ちる水のしずくが木琴をたたくように聞こえるかと思えば、奥に進むにつれて轟々とうなるような滝の音がして、水が奏でる音楽を楽しみながら水の作品群を觀賞できる。

入つてすぐ「延命の泉」という水たまったところがある。カルシウムが多いので飲み過ぎに注意すれば、鍾乳洞に湧き出た飲める水だという。洞内でも目を見張るのは「地軸の滝」。洞窟の中に高さ50mから落下するこれほど大きな滝があるというのは珍しいところだ。井倉洞は、数十年前の昔から今もお水の活発な営みが続いている活動中の鍾乳洞で水が非常に多い。足元が水たまりになっているところもあるし、上から落ちてくる大粒のしずくで頭や服がしめつてしまうほどである。出口を出ると前方に流れ落ちる滝を裏から見るのとができるが、これは洞内の水を人工的に排出しているものだそうである。その水量の多さに驚かされる。

照的で、水が上から滴ることもなく、音もほとんどしない。ただ、水をたたえた地底湖「泉水」では、流れる水は見えないが水の音が聞こえてくる。この神秘的な泉水にコインを投げ入れ、願い事をする人もいるという。変化に富んだ多彩な造形美の数々。静寂が支配する龍宮城、地下宮殿のような世界が広がっている。

力がみなぎり活動中の井倉洞と、活動が止み老年期にあるといわれる幽玄な満奇洞、それぞれ個性的な二つの鍾乳洞に加えて訪れたいのが、井倉洞と満奇洞のほぼ中間に位置する羅生門である。浸食が進んだ鍾乳洞が崩落して一部が残ったもので、いわ

# 岡山 水をめぐる旅

前野 あけみ



対岸から橋を渡り、井倉洞入口へ。井倉峽の断崖が目前に迫ってくる。



紅葉の季節には、石灰岩の絶壁にモミジ、イチョウ、カエデなどの秋の色が映える。井倉峽

吉井川、旭川、高梁川という一級河川が流れ、日本の名水百選に三ヶ所が選定されている水に恵まれた岡山県。「水」にスポットをあててみると岡山山の自然に触れることができるのではないかと思ひ、三天河川の上流方面を訪ねて、電車と車による二泊三日の旅に出た。

岡山駅からJR伯備線に乗り、井倉を目指す。緑が生い茂る山間を蛇行しながら流れる高梁川に沿うようにして電車は走る。川面に山の緑が映し出される清々しい車窓からの風景。今回のテーマ「水」にふさわしい幕開けであった。井倉駅までもうすぐというところで絹掛の滝が見えるはずだった。車掌さんに絹掛の滝の写真が撮りたいと言々と、運転手に徐行運転をするように頼んでくれた。

「このところ雨が降っていないから水量が少ないですよ。トンネルを出てすぐのところだけど、一瞬だから見逃さないでくださいね」と車掌さんと二人、ぴつたり窓にはりついてその瞬間を待った。つかの間、絹糸のように柔らかな感じのする滝を見ることができた。慌ててカメラのシャッターを2回押しした後、もう滝は見えなくなっていた。

## 水が造り出した芸術作品 井倉洞、羅生門、満奇洞

高梁川の上流地域、新見市は、石灰岩でできたカルスト地形特有の、水によつて浸食された奇岩、洞窟、鍾乳洞が多いところである。その一つ、井倉峽、井倉洞を見るため、岡山駅から電車で約1時間20分の井倉駅に

降り立った。井倉峽までは駅から歩いて10分くらいの距離である。高さ240mの力強くそびえ立つ荒々しい絶壁の下を緩やかに流れて行く高梁川。そんな風景が約8kmに渡って続いている。その絶壁にぽっかりあいた穴が井倉洞の入口である。井倉峽には数十個の洞穴があり、井倉洞をはじめとするすべての洞穴は内部でつながっているのでは、という説もあるらしいが、断崖にはもくもくと緑が覆っていてその洞口を見ることはできなかった。井倉洞は全長1200mの鍾乳洞で、洞内は気の遠くなるほどの時間をか





「龍宮岩」大きな奇岩の上から川を見下ろすと水の勢いを感じる事ができる。威勢のいい水は白水しぶきをあげて岩を削っていく。

龍が住む水の宮殿〜龍宮岩  
星山、神庭の滝周辺の地図を見ている時に、心惹かれる地名をみつけた。新庄川沿いの龍宮岩である。神庭の滝とは直線距離だと3kmくらいだが、いったん国道に出て迂回しないと行けないため車で30分くらいかかった。前出の神庭の「鬼の穴」は龍宮岩付近にある。神代(こうじろ)の鬼の穴につながらずという、冒険心をくすぐられるような言い伝えがある。

龍宮岩は、新庄川の流れる石灰岩を浸食してできた奇岩から成る風景が龍宮のようだといわれ、真庭市指定の名勝地となつている。この風景を見ていると、龍が住む宮とよぶにふさわしいと思えてくる。龍が川の上を猛スピードで飛び回り、尾があたつた岩が砕け散る。飛ぶ龍に煽られて勢いよく流れる水が剛堅な岩を削り、穴をあける。そんなシーンが想像できるような、力強さを感じる風景である。また、「龍宮岩の滝」は落差約8mの短いものだが、周囲に生い茂る濃い緑と同じ色をした水に向かって、岩間から一条の光がまっすぐに突き進んでいくように見え、その幻想的な美しさに感動さえ覚えた。龍宮岩の川の水は激しく暴れた後、次第に穏やかさを取り戻し流れていく。

自然からの贈り物 名水①〜鬼清水

龍宮岩の大きな奇岩から下りて、穏やかに流れる川の流に沿って120mほど下っていくと、石灰岩の隙間から水が吹き出ているところがある。短い二本の滝のように見えるこの水は鬼清水とよばれる名水。かつて参

勤交代のおり第七代松江藩主で茶人でもあつた松平不味が飲んだといわれ、昔から名水として知られている。夏でも約12℃の冷泉である。この水目当てにここを訪れる人が多いという。ツトボトルを手に道を上つてくる人と目が合い挨拶をすると、この水飲んでみなさいよ。今汲んできたばかりだから冷たくておいしいよと、水をわけてくれた。くせがなく、冷蔵庫で冷やした水のような味。早速、鬼清水へ近づいてみると、浅瀬にはうまい具合に足の踏み場とな



「鬼清水」が湧き出る岩は名水を守る祠のよう。

ば鍾乳洞の終焉の姿。高さ38m、幅17mもある石灰岩の巨大なアーチがうっそうとした草むらの中に威風堂々とたたずむその姿は、人が立ち入ることを拒絶するような気迫に満ち、もやがうっすらとかかった羅生門は異次元への入口のように見えた。気高く勇ましい水の姿〜神庭の滝  
岡山県北西部 真庭市にある神庭の滝は、岡山県で唯一「日本の滝百選」に指定された滝である。この一帯は自然公園になつていて、春の新緑、そして、モミジ、カエデ、ケヤキ、クヌギなどが色づく秋の紅葉の頃には特に人気のスポットとなる。滝は約2kmに及ぶ遊歩道が整備されて、「鬼の穴」と呼ばれる鍾乳洞、ごつごとした大岩の間をぬつて流れる溪流、そして野生の猿が訪れる人を楽しませてくれる。



「神庭の滝」水量が多いときは轟音とともに水壑が立つ豪快な滝を見ることが出来る。

星山に源を発する豊富な水が、神庭の滝となり見上げる高さから断崖を流れ落ちていく。ふとその地名の美しさに気づいた。「星の山の水が、神の庭にあふれているのだと考えると、辺り一面に漂う清らかな空気がありがたく感じられた。

「三つ」猿にも滝のイオン効果?

神庭の滝で出会ったお行儀のよい猿

今回、「神庭の滝」に行きたが、数年前、食べ物やくとつたところ、数人から「猿に襲われたいよてこさせないなど、お店に気をつけて」というアドバイスがかえつてきた。組んだという。

神庭の滝周辺には200匹以上の野猿が生息している。かつては観光客に手を出すとこの有名なたつたらしい。ビール袋を持つていないかと思ひつた。特に女性や子供を狙うという。不安に思いながら行つてみると、襲われるどころか、猿たちのなんともかわいらしい姿に心が和んだ。駐車場近くの売店のおばさんいわく「この猿はお行儀がええよ。厳しくしつめたから」。以前は、駐車の車や民家に入りこみ、食べ物を持っていくなどの悪さが絶えなかつた。

(前野 あけみ 記)





る石が連なっているのだが、鬼清水まであと数mというところからは川に入るしかない。「手足が切れそうなくらい冷たいですよ」というすでに水を汲み終わった人の言葉に怖気づきながら、スボンの裾をまくりあげて川に足を踏み入れた。水は非常に冷たく、つかの間でもふくらはぎが真っ赤になるほどだった。よくこのようなところに水が湧いているのをみつけたものだと感じつつ、この名水は人から見られないよう岩陰に身を隠し、長いことひっそりとその清らかさを保ってきたのだろうかと思つた。

### 自然からの贈り物 名水② 名水 岩井

鬼清水と同様、手つかずの自然の中岩の間から流れる名水をもう一ヶ所訪れた。岡山県北部、鏡野町の鳥取県に程近い山中にある「名水岩井」で、環境省の名水百選に岡山県から選出された三ヶ所のうちのひとつ。「子宝の水」ともよばれる奇跡の水である。

ふもとの駐車場から山道に入ると「告：この地は古来より霊場である。」と書かれた立て札が立っていた。山の中は茂るところは薄暗く、木々の



子宝に恵まれる水といわれる「名水岩井」。



岩壁を見た「岩井窟」。正面から見ると美しいが、横から見ると牙をむく猛獣の鼻先から水が流れているように見えた。

間から巨大な岩がごろごろ落ちて、緑が射す光が緑を一層ひきたてていて、確かに神聖な空気が漂っているように感じた。300mほど上ると、苔むした岩の間から湧き出る名水岩井がある。水温は13℃程度だそうで、冷たい水を口にくぐると上り道の疲れがとれるようだった。さらに100mほど上ったところには高さ約10m、幅約6mの「岩井滝」がある。岩に白く薄いベールをかけたような姿は神秘

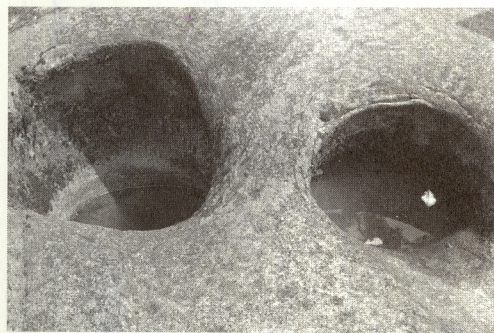
的で美しかった。滝の中央は不動明王を祀る岩屋になっていて、そこから滝の裏側を見ることができると、裏見の滝」とも呼ばれている。岩井滝と名水岩井にまつわる言い伝えがある。昔、子宝に恵まれない夫婦が滝の不動明王に願掛けをし、そのお告げに従って21日間岩井の水を飲んだところ、かわいい女の子を授かったという。岩井が「子宝の水」といわれるゆえんで、その子が生まれた七月十日には、

毎年「岩井滝まつり」が行なわれる。

こは春から秋にかけて、名水を求める人、参拝で訪れる人、滝の回りを彩る紅葉見物など観光で訪れる人、様々な人を迎え入れた後、冬には深い雪が積もり人の立ち入りを閉ざしてしまう。厳しい冬を経てもお絶えず流れる名水岩井を見ていると、この場所にあつてこの水には生命を育む力が宿つていても不思議ではないと思えた。

### 水の流れの偉大な力 奥津溪

奥津温泉に宿をとり、名湯で疲れを癒した翌日、車で約5分のところにある奥津溪へ向かった。奥津溪は川の流れが花崗岩を浸食してきた峡谷と清流、そして「奥津八景」といわれる奇岩、淵、断崖、滝がある溪谷美で知られる景勝地。時が止まったかのように見える穏やかな水面や激しく暴れまわる水など、水の様々な表情に加え、縦横に亀裂の入った巨岩や奇岩は見る者を飽きさせない。悠久の時をかけてこの風景を造り出した水の創造に目を見張るばかり。こは是非とも見たかったものが、



天然記念物「奥津溪の甌穴」。渦巻く水が数千年かけて岩にかけた穴。

奥津八景のひとつで東洋一の甌穴といわれている「臼淵の甌穴群」である。甌穴とは、水流が渦をまいて川床の硬い石を回転させた結果、岩が削られてこみ、回転する石によってさらに深く丸く岩にいた穴のことをいう。この溪谷には十数個の甌穴があり、数十万年、数千万年かけて削られた穴もあるという。地元の人々が「甌穴に温泉を入れて川を眺めながら湯に浸れば最高でしょうね」と言つて

いたが、大人ひとり入れる位大きなものもあった。

この辺りは、かつて大釣の霊地とよばれひっそりとしたところだったが、大正以降、道路が開通すると景観美が広く知られるようになった。春は、こぼし、しゃくなげ、つつじの花が咲き、夏は新緑で覆われる。秋はもみじが色鮮やかに紅葉し、冬は雪景色となる。四季折々の溪谷美を愛でる今では一年を通じて多くの人が訪れるようになった。そんな時の移り変わり、人々の往来を物ともせず、くるくると回り続ける水に永遠の生命力を感じた。

### 水はすべての生命の源

水めぐりを終え、津山駅から津山線に乗り岡山駅へ向かう。岡山駅に近づくにつれて旭川が見えてきた。旅の締めくくりに水が見送ってくれるのかと思うと、別れを惜しむかのように車窓から川を眺め続けた。岡山県の地図上で吉井川、旭川、高梁川の流れを線で引いてみると、三本がきれいに並ぶように北西から東南にかけて流れていることがわか



る。これらの一級河川とその支流が岡山全域を潤し、水のある風景を作り出している。この三河川の源流に近い岡山北部を回ってみて、連なる山々に他の色がみつからないくらい濃い緑が生い茂っていることに驚いた。県内最大のブナ原生林が広がる毛無山がある新庄村で聞いた話によると、ブナ一本は田んぼ一反を潤すくらいの保水力があるという。この緑で埋めつくされた山々は膨大な量の水を蓄えていることだろう。滝となり、川に流れ、岩を削り、岩の割れ目から名水となって現れたりする水時には美しく、時には力強く流れ、そして、やがて瀬戸内海にたどりつく。自然を壊すことさえしなれば、山から湧いた清らかな水がそのまま海に流れていき、豊富な海の幸が産まれるだろう。そして私たちはその恩恵にあずかるのだ。水は岡山の宝。これからも汚染されることのないよう願ってやまない旅となった。



《問い合わせ先》

井倉洞、満奇洞、羅生門  
新見市商工観光課  
TEL 0867-72-6136

神庭の滝、龍宮岩と鬼清水  
真庭市勝山町づくり振興課  
TEL 0867-44-2611

名水岩井と岩井滝、奥津溪  
鏡野町商工観光課  
TEL 0868-54-2111